センター通信第13号　オンライン作品展&授業ライブラリー　R3.10.4

オンライン作品展(科学作品展と社会科課題追究作品展)9/17~9/30　ありがとうございました。

９月１７日～９月３０日センターのホームページを使ってオンライン科学作品展と社会科課題追究展を行いました。集合型の作品展が実施できない状況の中での初めての試みでしたが、夏休みに多くの児童・生徒のみなさんが取り組んだ様々な研究や制作の中から、優秀作品を WEB 上で紹介することができました。

作品展にあたっては多くの先生方や児童生徒の皆さん・保護者の皆様にご協力をいただき、ありがとうございました。

以下にはオンライン作品展に掲載された児童・生徒の皆さんの「研究に取り組んだ思いや頑張り」を掲載してありますのでぜひ、ご覧ください。

（なおオンライン科学作品展・社会科課題追究作品展のページは１０月末まで閲覧できるようにしてあります。）

オンライン科学作品展掲載作品より

「とおくまで とばしたい！～みずでっぽう～」

せいかつかで みずでっぽうあそびをしました。そして、もっととおくまでみずをとばしたいなあとおもいました。みずでっぽうになりそうなものをいろいろあつめて、あなのおおきさやちからのおおきさなどをかえてみました。はじめは、あながちいさいほうがよくとぶとおもっていたけれど、おおきすぎてもちいさすぎてもだめなことがわかり、びっくりしました。びしょびしょになったり、なんどもくりかえしたりしてたいへんでした。でも、さいごはぼくのよくとぶみずでっぽうができてうれしかったです。

「ダンゴムシはかせになりたいな」

ダンゴムシと楽しく遊びながら，調べることを通して，ダンゴムシの体や動きなどのヒミツを発見することができました。がんばったことは，何度も実験を繰り返して，調べたり，観察したりして，結果を出したことです。長い間育てたダンゴムシが脱皮したり，卵を産んだり，新しい発見もすることができ，ダンゴムシについて，さらに興味関心をもつことができました。

「ぼくの体ひんやり大さくせん～夏をかいてきにすごすには」

じっけんをたくさんやって、ねっ中しょうになりにくい、体があつくなりにくい方法がわかりました。テレビ番組でみてわかりやすかった、サーモグラフィーカメラをじっけんに使ってみました。登下校をかいてきにするためのお助けグッズ「せんぷうきクールかさ」を作る時に、せんぷうきをつけるのがむずかしかったけど、がんばりました。

「わりばしは どうしたら きれいにわれるの？」

わりばしがつかいにくいひどいわれ方でわれたので、きれいにわるにはどうすればいいのかを研究することにしました。わりばしをわるという動作を細かく観察してそれぞれの実験を何回もがんばりました。
実験は、手が痛くなったり、結果がうまくでなくて大変だったけど、最後には、きれいにわる方法を見つけることができたのでうれしかったです。皆さんも ぜひ、ためしてください。

「どんなちがいがあるの？イースト VS 天然酵母」

比べる実験をするとき、できるだけ条件を一緒にして実験を行った。１２時間ごとに酵母を観察し、前の観察時と比べ何が変わって何が変わっいないか、しっかりと観察することができた。天然酵母は時間がかかり難しいため、短い時間で簡単に作ることができるイーストのよさが分かりました。

「ミナミメダカを絶滅から守ろう」

研究のために育てた１５０匹以上のメダカを大切に世話（水替え・えさやり）することをがんばりました。「大きくして生き残らせること」・「越冬したメダカが大きく育つか」・「他の種類のメダカとの交雑が自然界へ与える影響」を、夏休みの期間だけでなく長い期間をかけて研究することができました。

「アサガオの交配」

私が工夫したところは，結果を分かりやすくまとめたことです。どのようにしたら，見る人にとって見やす

く分かりやすい研究になるのか考えました。そこで色々なアドバイスに耳を傾け，シールを貼ったり，語句の訂正（優勢→顕性，劣性→潜性）をしたりしました。また，今年は雨が多く，日照時間が少なく，交配する条件があまり良くなかったので，とても不安な日々が続きました。来年は最終目的の「さらさのアサガオ」を咲かせたいです。

「女子力向上プロジェクト STEP3 ～「お茶」で消毒作業は出来るのか？～」

「お茶を消毒作業に使うことができたら利点が多いのでは」と思い、日常的に使っている色々な消毒液とお茶の殺菌効果の比較実験を行いました。実験方法の確立が難しく、何度も失敗を繰り返し、とても苦労しました。膨大な実験結果を分かりやすく比較するために、写真や表、グラフの示し方を工夫しました。今後も、生活の中で感じた疑問や課題を自分で探究する姿勢を大切にし、自分自身の女子力、自分力を磨き続けていきたいと思います。

オンライン社会科課題追究作品展掲載作品より

「おにぎり４７」

わたしは，それぞれのとどうふけんで日本一とれたり，つくられていたりするたべものでおにぎりをつくりました。むずかしかったのは，おにぎりのぐをきめるところです。日本一のものがなかったり，あってもおにぎりのぐにむいてなかったりしたからです。くふうしたところは，ちずのまとめかたです。ちほうべつに色わけして見やすくしました。おにぎりをつくってたべて，たのしくできました。

「わたしのおしごと体けん」

わたしのしょうらいのゆめはけいさつかんになることです。そこで，けいさつの人たちがどんなおしごとをしているのか，いびけいさつしょ・ぎふけんのけいさつ本ぶ・大野交番に行って調べ，考えたことをこのけんきゅうにまとめました。けいさつの人たちはくわしく，やさしく，お話を聞かせてくれました。おしごとにつかうどうぐを見せてくれたりパトカーにのせてくれたり，けいさつ犬とふれ合ったりかんしきの体けんをさせてくれたりもしました。けいさつの人たちは，町の人があんぜんをまもるために，いろいろなやくわりの人たちできょう力合ってしごとをしていることが分かりました。わたしもじこやじけんに合わないように気をつけていきたいです。そして，わたしもやさしいけいさつかんになりたいです。

「ごみしらべ」

ごみの分べつのし方，ルール，ごみをへらすくふうなどをしらべました。今までは，かみパックを切ったり，ラベルをはがしたりすることしかできなかったけれど，マークを見て分べつができるようになったし，１つのはこから何しゅるいも分べつできるようになりました。エコバックをつくったり，せいそうかつどうにとりくんだりしました。

「SDGｓ14 『海の豊かさを守ろう』 ～小学５年生の私にできること～」

「こども SDGｓ」という本を読んで、世界で問題になっている貧困や温暖化、気候変動などで人間が地球に住めなくなるかもしれないと知り、びっくりしました。その中でも 14「海の豊かさを守ろう」に興味を持ちました。私が大人になった時も、魚や海の生き物が生きていくには、今からどうしたらいいのかを考えるために、いろいろな実験や調査をしました。牛乳からプラスチックを作り、環境にやさしい材料について検証実験をしました。また、リサイクルセンターで聞き取り調査をしたり、サスティナブルフードについて調べお店で商品を探したりしました。さらに、調べたことをもとに、どんなことが私にできるのかを考え、実際に取り組んでみました。これからも、マイアイテムを持ち歩いたり、ごみの分別をして再利用したりして、SDGs の達成、地球の環境のために積極的に行動していきます。

「古墳 ～なぜ中八幡古墳はこわされたのか～」

社会科の歴史の授業で、地域の遺跡である「中八幡古墳」について学びました。その古墳は現在ありません。どうしてないのだろうと考え、実際に見て見学をすることはできないけれども、もっと自分なりに調べてみたいと興味をもちました。その時に、池田町にある前・中・後期の代表的な古墳を実際に行ってみることで、歴史の変遷をとらえました。地域の代表的な古墳だけではなく、他市の古墳を訪れて比較したり、副葬品を体験として作成したりと活動が多岐にわたっています。また、観光ボランティアさんや実際に願成寺古墳群を発掘した先生に質問をしたり、発掘された出土品に触れたりすることで学びを深めることができました。さらに、調べたことをもとに、この遺跡をどのように活用していくのかまで考えました。

「SDGｓ １７の目標大研究」

SDGｓの 17 の目標について，１つ１つ丁寧に調べました。実際にその場所に行ってインタビューをしたり，エコバックを作成したりするなど理解を深めていきました。目標期限である 2030 年には，私は 20 歳にな

っています。その時に，目標が実現された世界になるために，私自身が決めた行動目標をしっかりと守っていきたいと思います。そして「持続可能な社会」に貢献したいです。

「お金ってなんなん？」

小学校５年生の時に，当時の政治家の発言をきっかけに『本当に老後 2000 万円必要か？』という研究を行いました。調べた結果，健康に 90 歳まで過ごすとなると 2000 万円では足りないことが分かりました。研究の過程で疑問に思った「そもそもお金とは何なのか？」「お金はどんな仕組みで造られているのか？」ということについて追究したのが本研究です。本研究では次のような成果をあげることができました。
①お金の歴史を調べることで，お金を使う良さについて知ることができました。昔の人々が工夫を重ね，手軽に物の交換ができるようにお金を生み出したことに驚きました。②現代における家計の収支や貯蓄，税金に目を向けて調べることで，お金は自分がどう生きるかにつながる大切なものであることを実感しました。大人になったら真面目に仕事をし，自分で稼いだお金を大切にしたいと思いました。

「半兵衛と官兵衛、どちらが優れた軍師か？」

この作品で工夫したところは、半兵衛と官兵衛でどちらがより優れた軍師なのか、調べたことをもとに自分なりに“ポイント”を付けて比較をしたところです。半兵衛と官兵衛のことを調べていくと、どちらも優れた軍師であるために、交互にポイントが入り、ほぼ互角でした。大きな差であると私が評価したのは「自分が手柄を立てたのだ」と自己主張していた官兵衛を素晴らしい軍師へと導き、仁愛と信義に基づいて行動した半兵衛の人柄です。小学校 ６年生に調べたことをもとに、官兵衛と比べることを通して、大野町にゆかりのある竹中半兵衛の軍師としての素晴らしさをより深く感じることができてよかったです。

「大野の太鼓判」について

大野町の役場や道の駅に取材をさせていただき、疑問に思ったことを深く知ることができるようになりました。また、いただいた資料を参考にまとめたり、自分で撮影した の役での販売の様子の写真などを活用し、まとめた内容が少しでも伝わるように工夫することができました。最初は、「大野の太鼓判」は大野町の特産品を PR する事業としかわからなかったけれど、調べてみて町全体の PR や企業の手助けなど、いろいろな分野につながる事業であると知りました。自分の住む地域について調べることで、今まで知らなかったことを知ることができ、身の回りに関心をもつことは、大切なのだなと思いました。

令和３年度　授業ライブラリー

揖斐郡教育研修センターでは郡内の先生方にご活用いただき、授業力の向上や新たな視点の獲得、授業づくりの効率化を図っていただくために「授業ライブラリー」のページを設けており、今までに郡内の各小中学校の先生方より数多くの指導案や指導資料をご提供いただいております。授業ライブラリーの活用にあたりましては閲覧するための**「パスワード」が設定されています。**　閲覧の際には下記のパスワードを入力してください。

教材データベースのパスワード・・・ [redacted]　取扱注意

※　必ず「英数半角」で入力してください。（パスワードは各校に連絡済みです）

ライブラリーに掲載する指導案・指導のための教材の募集について

揖斐郡教育研修センターでは令和３年度も、年間を２期に分けて募集しております。

◇第1期：令和2年度3学期及び令和3年度1学期に実践された授業の指導案を募集します。

・提出〆切　　令和３年１０月中に

※〆切が第１回校長会でのお願いでは７月３０日になっておりましたが、１０月中をめどに第１期分の提出をお願いします。

※実践を送付いただければ随時ホームページにアップしますので、〆切以降でもセンターに送付いただけばその都度掲載致します。

◇第２期：令和３年度２学期に実践された授業の指導案を募集します。

・提出〆切　　令和４年１月２８日(金)

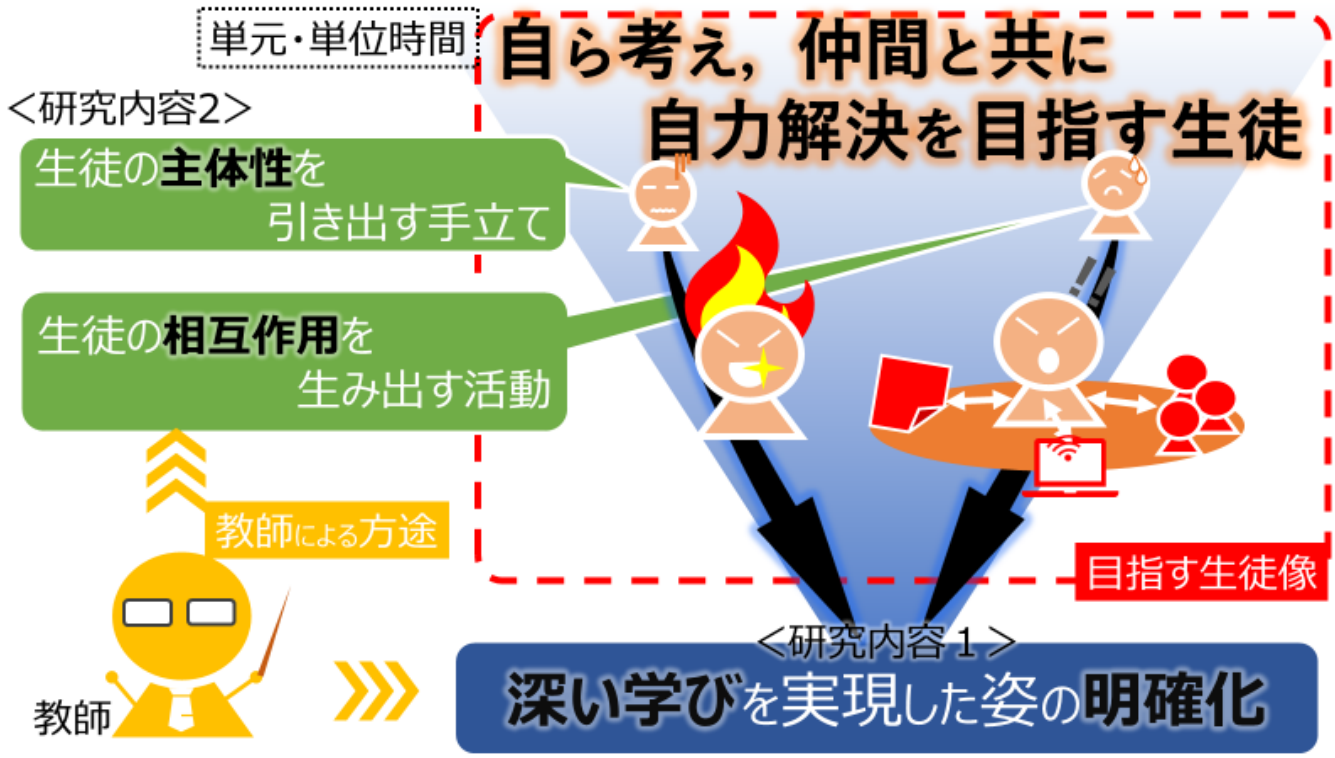
※２期の募集につきましても、〆切後でも送付いただければ随時アップします。

令和３年度授業ライブラリーのページから

本年度の授業ライブラリーの資料として揖斐川中学校より「授業ライブラリー」用の指導案を送付していただき、センターホームページの授業ライブラリーにアップ致しました。

揖斐川中学校では研究主題を「自ら考え、仲間と共に自力解決を目指す生徒の育成～主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業デザインを通して～」の研究主題のもと、全教科・全領域を対象に研究に取り組んでみえます。

また、研究内容として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業デザインを行うために
研究内容１・・・単元や単位時間での「深い学び」を実現した授業の姿
研究内容２・・・自力解決を目指すための「主体的・対話的な学び」を実現するための方途の設定
を取り上げ、全教職員の共通理解のもと実践に取り組んでみえ、掲載させていただいた３つの実践（国語・保健体育・英語）のいずれにも具体的にそうした授業づくりの理念が明確に示されています。



それぞれの実践を見ると

＜国語の授業では＞

① 例示から自力解決への見通しをもつ　②仲間との相互評価から学習を振り返る

＜保健体育の授業では＞

① 正確な自己の実態把握のための視点（チェックポイント）の共有
② 練習効果の理解の共有

＜英語の授業では＞

① 自分の考えを伝えたい・仲間の考えを聞きたいと思えるトピックの設定＆アウトプットの機会の確保
② 交流をする中で、仲間の表現の良さに気づき、自分の表現に取り入れる活動
③ 添削をしあい、指摘された自分の間違いを自分の力で修正する活動

が本時の手立てと期待するする効果として明確に示され、研究主題に基づいてそれぞれの先生が「本時の深い学び」とは何か、「本時の深い学びを実現した具体的な生徒の姿」とはどんな姿なのかを明確にして授業作りをしてみえるのが伝わってきます。

「深い学びを実現した姿の明確化」、「生徒の主体的を引き出す手立て」、「生徒の相互作用を生み出す手立て」を通して、全職員が一丸となって「自ら考え、仲間とともに自力解決を目指す揖斐川中の生徒」を生み出そうとしている実践に、ぜひ授業ライブラリーのページに目を通して触れてみてください。

また本通信では揖斐川中学校の実践を紹介させていただきましたが、各学校におかれましても数多くの優れた実践がおこなわれていることと思います。そうした実践を授業ライブラリーにご提供いただき、揖斐郡の教育の財産として積み上げていければと思います。よろしくお願い致します。